平成 28 年度第４回観光・都市魅力部会　議事概要

日時：平成 28 年８月２日（火）11:00～12:00
場所：大阪市役所　Ｐ１会議室
出席委員：溝畑部会長、勝見専門委員、嘉名専門委員、栗本専門委員

〔開会〕

〔第２回都市魅力戦略推進会議報告〕
■溝畑部会長（資料１）
〇審議の結果、戦略素案の記載内容でおおむね合意された。素案では空欄となっているＫＰＩの数値目標の設定および重点取組について、引き続き各部会で議論することとなった。

〔KPI の目標数値の決定について〕
■事務局説明（資料２）
〇主指標の一つ目の「来阪外国人旅行者数」については、現状と国の目標値を勘案し４案を提示。主指標のうち、「来阪外国人旅行消費額」及び「延べ宿泊者数」は旅行者数から算出するため、同様に４案示している。国際会議開催件数については、過去５年間の平均増加率から目標値を設定。各都市像ごとに、主指標の他２つずつ副指標を設定。

⇒事務局説明に対する委員意見
■勝見専門委員
〇指標「自分の住んでいる地域に愛着を感じている府民の割合」に関して、外部指標ではなく内部指標（府民の割合）が使われている理由は何か。

→事務局
〇都市像「世界に誇れる自慢の都市」を世界に発信する上で、大阪府民自身が自分のまちに誇りを持つことが必要であり、シビックプライドを醸成していくこともひとつの目標であるため。また、３つ目の副指標として「大阪が楽しいまちだと思っている人の割合（全国）」を入れているところ。

■嘉名専門委員
〇指標「来阪外国人旅行者数」および「延べ宿泊者数」に関して、案１から４は受け入れる宿泊施設の増加の見込み等の裏付けがあるのか、それとも国の目標値を割り戻した数値か。

→事務局
〇国の指標を前提にした目標設定。宿泊施設のキャパシティの問題は認識しているが、2020 年の宿泊施設の明確な数を見込んでの数字ではない。

→嘉名専門委員
〇それぞれの案についてどうすれば実現できるのか、対策を踏まえながら数値を検討すべき。

■溝畑部会長
○補足すると、現在われわれが把握しているホテルの新規立地計画に大幅増が見込まれているところ。また、国も目標数値を上方設定した以上、東京や大阪に受け入れを求めると思われる。委員の指摘はもっともであり、今後の民泊を含めた宿泊施設数の動向や、国の動き等を注視し、客観性を持たせたい。

■勝見専門委員
○「外国人旅行消費額」について、量から質へという議論があるなかで重要な指標であると思う。

■溝畑部会長
○「24 時間おもてなし都市」を目指していく上で、富裕層の受入れ強化やナイトカルチャー創出による消費の増加は重要な課題と認識。消費額単価についても今後精査する必要がある。

■栗本専門委員
○目指すべき都市像のＫＰＩ指標は達成が求められる数値なのか、それとも目標数値なのか。また、指標「大阪が楽しいまちだと思っている人の割合（全国）」に関して、もう少し踏み込んだ全国レベルの質問があってもいいのではないか。

■溝畑部会長
○都市像「世界に誇れる自慢の都市」を目指すためには、世界における大阪の国際的なブランド力を測る指標が必要ではないかという議論がこれまでにもあったと思う。また、指標「国際会議開催件数」に関して、開催件数だけでなく、参加者数や商談の成約数なども考慮すべきではないか。

→事務局
○KPI 指標の設定については、達成可能ということは当然必要だが、目指していくという考え方も必要。委員からご意見いただきたい。また、現在設定している指標は素案の段階で一定整理しているが、指標の追加修正については、具体的にデータの確認方法も含めてお示しいただければ検討する。

■勝見専門委員
○「世界に誇れる自慢の都市」を目指し、「世界第一級の文化・観光拠点形成・発信」をしていくなら、KPI として他都市との比較が必要なのではないか。

〔重点取組について〕
■勝見委員
○今回の戦略では、大阪観光局を中心とした観光ＤＭＯを推進していくが、府としては、どのようなＤＭＯを目指すのか、また、単に人を集めるのではなく、訪問者たちに満足していただいて、最終的にはお金を使っていただくことが重要であることから、そのための組織を含めて人材をどう育成し確保しながら進めるのか、今後重要な議論になると思う。

■嘉名専門委員

〇観光・都市魅力を取り巻く状況がこれまでとは大きく異なってきていることから、今回の戦略を進めるにあたっては、従来の考え方、発想、やり方を変えていかないといけないということを強調しておきたい。そしてそのためには、かなり強く打ち出していくことが必要となり、メリハリが求められることになる。

■栗本専門委員
〇戦略を推進するにあたっては、各施策の実施主体を明確にし、その上で行政と民間等との役割分担、連携を整理して進める必要がある。また、各施策の中でも特に目玉となるようなもの、その他クオリティで３つくらいのレベルに分類し、さらに、各施策の取組むべき視点を長期、中期、短期に分類するなどして、それぞれそこに人を配置するという整理が必要になると考える。

■溝畑部会長
〇大阪は極めて高いポテンシャルを持っていると感じている。しかし府民・市民は明るい未来が見えていない。だから、生産性が上がり儲かる仕組みをしっかり打ち出し、目線を上げさせなければいけない。それが今後 10 年間のすべての施策に共通するテーマだと思う。そしてその打ち出しは、これまでの取組みとの連続性をもたせた上で、経済界、霞ヶ関、ひいては世界の人にオッと思わせるようなメリハリをつけることが重要。また、観光、文化、スポーツすべての分野で専門人材の育成を図っていくことは、すごく大きなテーマだと思っている。

〇大阪の方々は民力が高いというのが私の評価だが、その民力、やる気をどう捉えるべきと考えるか。

→事務局
〇地域で取組まれているプレーヤーの方々は、自分たちでやっていくという思いが強いので、行政はそれをどういう仕組み・仕掛けで支えていくのか。そういったことをＤＭＯがつないでいくべきだと思う。

〔今後のスケジュールについて〕
■溝畑部会長
〇今後８月 12 日に第３回戦略推進会議の本審が開催され、その審議結果を踏まえて戦略案としての取りまとめがなされることから、部会における審議は今回の第４回部会をもって一旦終了することになる。しかし、12 日の会議で出た意見の状況によっては、もう一度部会にフィードバックするということも含みを持たせておいてもらいたい。

〔閉会〕